
ミズカエセ

Ulster

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミズカエセ

【Nコード】

N4256BA

【作者名】

Ulster

【あらすじ】

あなたは呪いを信じるだろうか。

人は物を愛したり大切にしたりします。

本当に大事にし続けてきた物には自分の生き霊が宿ると言われています。

そしてその生き霊が宿った物が

他の誰かの手に渡り、持ち主が変わった時。

生き霊は激怒します。

その激怒が新しい持ち主への呪いへと変わるのです。

これはある新人アルバイターの話。

そう、彼こそが「新しい持ち主」になってしまったのです。

田舎の博物館

新人アルバイトの若者、福田。

アルバイトの内容は、解体工事の作業。

T県K市のある古い博物館を取り壊す事となった。

とはいっても勿論自分一人で全てやる訳ではなく、

木村先輩、山口先輩、新山先輩、石川先輩、尾崎先輩の5人の手伝いが主だ。

「いや、しかし本当に田舎だなあ。日も沈んで暗いんだが、辺りには灯1つない。こんな所に博物館なんてなんで建てたんだ？」

木村先輩が不機嫌そうに愚痴を吐いた。

すると石川先輩まで口を揃えて言った。

「懐中電灯1つじゃどうにもならねえなあ。これじゃ博物館の中は全く見えねえし、ここで朝まで過ごすつても何か気の毒だ。」

「おい、福田。俺ら先に引き上げるからさ。あのワンボックス貸してやるから機器や材料の片付けとかやつといってくれないかな？」

新山先輩がニヤニヤしながら近づいてきた。

現場には、二台のワンボックスがある。先輩5人は片方のワンボックスに乗って事務所に帰り、俺はもう片方のワンボックスで機器を積んで事務所に戻れ。という事だ。

片付けだけなら、すぐ終わるだろ。と思うかもしれないがそうではないのだ。

機器の手入れもあるし、管理人に迷惑をかけないように散らかった材料の掃除もしなくてはいけない。

それを一人でやるとなるとやはり2時間はかかる…。

「わかりました。」

手伝いとはいえ、さすがに面倒臭いし心細いな。でも、仕方ないかな…。

それに何かこの博物館、気味が悪い…。早く仕事を終わらせて事務所に帰るとしよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4256ba/>

ミズカエセ

2012年1月11日10時45分発行